

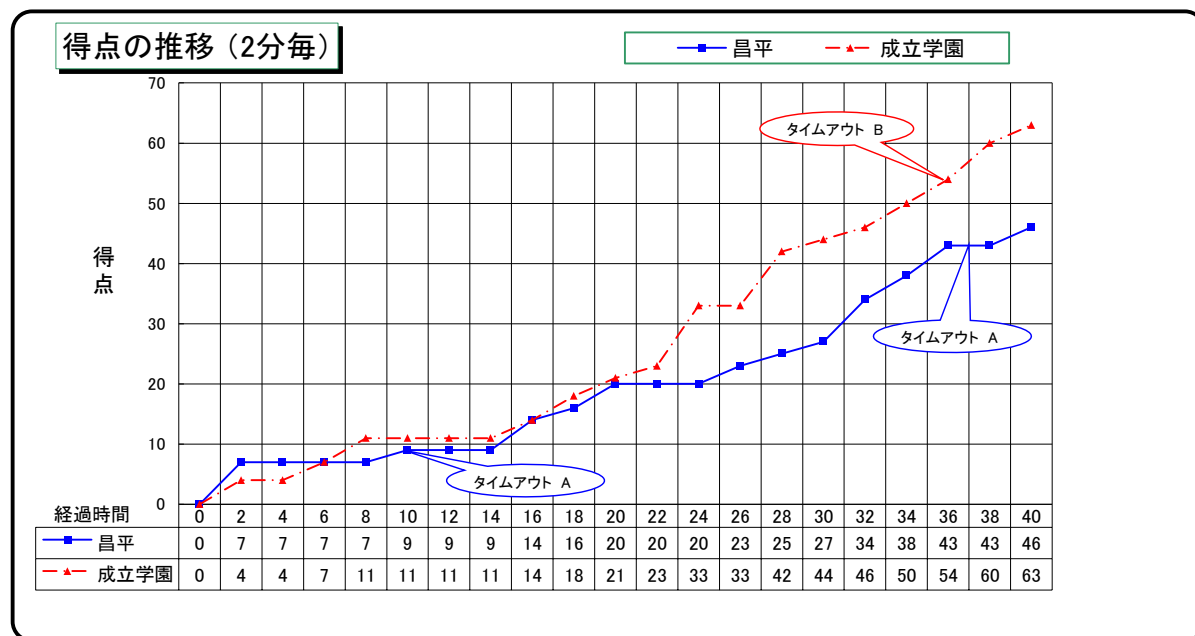
# 平成27年度 関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第69回 関東高等学校男子バスケットボール選手権大会 ＜1回戦＞

平成27年 5月30日(土)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	大会1日目	Dコート	第2試合 10:30～													
<b>&lt;チームA&gt;</b> <b>昌平</b> 埼玉		46 { <table border="0"> <tr><td>9</td><td>1Q</td><td>11</td></tr> <tr><td>11</td><td>2Q</td><td>10</td></tr> <tr><td>7</td><td>3Q</td><td>23</td></tr> <tr><td>19</td><td>4Q</td><td>19</td></tr> </table> } 63		9	1Q	11	11	2Q	10	7	3Q	23	19	4Q	19	<b>&lt;チームB&gt;</b> <b>成立学園</b> 東京	
9	1Q	11															
11	2Q	10															
7	3Q	23															
19	4Q	19															
主審: 仙波 紀彦(茨城) 副審: 森下 佑介(茨城)																	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	振角 耀平					5
◎	5	伊藤 源刀	12	4			1
◎	6	石垣 裕貴	8		4		2
◎	7	川合 祐太郎	6		2	2	
○	8	遠藤 颯斗	4		2		2
○	9	生野 翔太					1
	10	松田 拓未					
○	11	江田 駿介	7	1	1	2	
○	12	中森 優哉					
○	13	斎藤 昌汰	3	1			1
○	14	ホール 百音 アレックス	2		1		
◎	15	柿沼 慶多	4		2		
	16	小室 優斗					
○	17	大滝 歩					
	18	西川 竜弥					
		コーチ 畔川 秀雄					
合計			46	6	12	4	12

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	小林 伊織	17	1	7		2
◎	5	熊谷 広生	8		3	2	3
○	6	戸田 健介	2		1		1
○	7	長島 悠作					1
	8	北村 仁					
○	9	田口 辰海	3	1			1
	10	胡 胤耀					
◎	11	南島 隼人	8		4		2
	12	船橋 健太					
◎	13	井上 悠暉	11	1	4		
	14	奥 巧充					
	15	中津留 耕介					
	16	磯田 拳太郎					
○	17	樋口 和奏					2
◎	18	金城 光	14	3	2	1	2
		コーチ 袴田 清美					
合計			63	6	21	3	14

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート(本数) / 2P:2点シュート(本数) / FT:フリースロー(本数) / Foul:パーソナルファウル



**戦評** 記入者: 萩谷 大佑

昌平高校(以下昌平)対成立学園(以下成立)の対戦。

第1P、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスからスタート。試合序盤、昌平⑤伊藤の3p、ドライブインから得点チャンスを何度も作るも決定機を決めきれず、開始3分スタートメンバー5人を交代。対する成立は⑩南島のバスケットカウントを含む3連続得点でスタート。残り5分メンバーを戻した昌平だが、フリーでのチャンスを決めきることができない。しかし激しいディフェンスで成立に得点チャンスを与えず、9-11とロースコアの展開で第1P終了。

第2P、お互い相手ディフェンスを崩すことができず5分経過してなお両チーム得点のない始まり。均衡を破ったのは昌平⑭ホール。スティールからのダンクシュートは惜しくも外したものの、その後オフェンスリバウンドから得点に繋げる。対する成立も⑩南島のオフェンスリバウンドから何度も攻撃を仕掛け、得点に繋げる。第2Pもロースコアのまま20-21で前半終了。

第3P、後半もお互いハーフコートマンツーマンディフェンスで開始。序盤、成立の④小林のドライブイン、⑩金城の連続3pで波に乗る。対する昌平はゴール下のシュート、3pシュートを打つも厳しいシュートチェックにより決めきれず、無得点のまま5分経過。成立④小林が終盤もドライブイン、3pを決めるなどチームを牽引し、得点を重ね27-44と一気に得点差を広げ第3P終了。

第4P、昌平はインサイドの⑥石垣、⑮柿沼を中心に攻撃を繰り返し得点に繋げる。また外からは⑤伊藤の連続3pが決まり、10点差まで追い上げる。たまたらず成立が残り5分でタイムアウト、その後⑤熊谷がゲームをコントロールし流れを取り戻す。残り3分から昌平はオールコートマンツーマンプレスで前線から積極的に仕掛けるが、成立⑤熊谷がドリブルでプレスを切り崩す。昌平は最後まで第3Pで離された点差を縮めることができず、46-63で試合終了。成立が2回戦進出を決めた。